

意見発表

渡辺(ひ)委員

公明党県議団として、幾つか意見を述べさせていただきます。

はじめに、平成 25 年 9 月補正予算関連で、第 6 次産業化ネットワーク活動支援事業の実施について、農林水産業の 6 次産業化は、収益の向上と経営の安定化、担い手確保につながることから、新たな経営手法として期待されています。今回の 6 月補正予算で提案された 6 次産業化ネットワーク活動支援事業は、6 次産業化を推進する上で大変有効な事業であると思います。特に、新たに設置される 6 次産業化サポートセンターには、6 次産業化を推進するための中核的役割を果たす機関として期待しているところであります。その上で、6 次産業化サポートセンターは、本年 12 月を目途に設置予定とされていますが、そのサポート機能には専門性が必要であり、その陣容が事業の成否にもつながることから、非常に重要であります。県はコンサルから委託事業者を選定するとしていますが、慎重に検討することを要望します。また、センターの運営に当たっては、6 次産業化を目指す農林漁業者に対し、神奈川県の特徴を生かした、県独自のきめ細やかな支援ができるよう留意してもらいたいと思います。

さらに、これまでの事業を国が行ってきた際には、事業計画書の認定に時間がかかるなどの課題もあったとのことであり、それら課題も踏まえた体制の検討も必要です。そして、小さな取組でも、6 次産業化に向けて意欲的に取り組む農林漁業者に対しても、幅広い支援をしていただくよう要望いたします。

次に、所管報告事項に関連して、花菜ガーデンについてですが、開園当初から入園者数が計画の約 4 割にとどまったことから、入園者数の増加と事業者の収支状況の改善を目指して、トライアル期間を設け、取組の充実を図っているとのことであり、トライアルにより状況の改善は見られるものの、PFI 事業として成功するかどうかについては、今後の取組次第だと思えます。そもそも、当初の計画が甘かったことを指摘せざるを得ませんし、その事業者選定、計画選定をした県にも責任があると思えます。よって、それらを踏まえて、県及び事業者ともに、入園者数の増加、収支の安定に向け、更なる取組に努めていただきたいと思います。その上で、トライアルの取組を検証するとともに、今後の対策を検討する中で、県民サービスの向上の視点から、事業の継続、発展に向け、計画や契約の見直し等も検討すべきと要望します。

最後に、かながわ里地里山保全等促進指針の改定骨子案について、里地里山は、農林業の生産の場としてだけでなく、美しい風景や多くの生き物を育む場所でもあり、多くの県民にその恵みを与え、次世代に引き継いでいかねばなりません。これまでの取組等で、里地里山の保全等について、課題も明らかになってきています。指針の見直しに当たっては、地域で活躍している団体や市町村、県民の意

見などを十分伺いながら、県内の里地里山の保全等が図られるよう、様々な知恵を絞って検討を進めることを要望します。例えば、各団体間の連携のための交流会等が検討されているとのことですが、それら団体の活性化や活動参加の促進、人材育成のためにインセンティブや顕彰制度の創設、サポートセンター等を活用した全県的なネットワークの構築を検討することを要望します。

以上、意見を述べさせていただき、公明党県議団として、当委員会に付託された諸議案に賛成させていただきます。